令和７年度和歌山県公立学校教員採用候補者選考試験問題

＜校種・教科専門：養護教員＞

受験番号	

受　験　心　得

開始の指示があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。

◎注意事項

１　この問題冊子の最終ページは、９ページです（余白ページを除く。）。

２　試験開始後、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁、乱丁、もしくは解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、黙って手を挙げて、会場の監督員に知らせてください。

３　解答は、すべて解答用紙の所定の欄に指示された方法で記入してください。

４　問題冊子及び解答用紙の受験番号の欄に、各自の受験番号を記入してください。

５　解答時間は、６０分です。

６　解答用紙の余白にメモ等を行ってはいけません。

７　問題冊子の余白は、メモ等に適宜利用してください。

８　試験終了後、この冊子は持ち帰ることができます。

1　定期健康診断について、次の［問１］～［問３］に答えよ。

［問１］次の文は、学校保健安全法施行規則の一部である。文中の［　①　］～［　③　］にあてはまる語句をそれぞれ書け。

> 第六条　法第十三条第一項の健康診断における検査の項目は、次のとおりとする。
> 一　身長及び体重
> 二　栄養状態
> 三　脊柱及び［　①　］の疾病及び異常の有無並びに四肢の状態
> 四　視力及び聴力
> 五　眼の疾病及び異常の有無
> 六　耳鼻咽頭疾患及び［　②　］の有無
> 七　歯及び口腔の疾病及び異常の有無
> 八　結核の有無
> 九　［　③　］の疾病及び異常の有無
> 十　尿
> 十一　その他の疾病及び異常の有無

［問２］「児童生徒等の健康診断マニュアル」（平成２７年８月　日本学校保健会）に示されている定期健康診断について、次の（１）、（２）に答えよ。

（１）身長の検査方法についての説明として誤っているものを、次の（ア）～（カ）の中からすべて選び、その記号を書け。

> （ア）　測定の際は必ず裸足で行う。
> （イ）　身長計の踏み台に上がらせ、両かかとをよくつけて直立させる。
> （ウ）　尺柱には、両かかと、臀部、後頭部が触れた状態とする。
> （エ）　目盛は必ず視線を水平にして読む。
> （オ）　上肢は体側に垂れさせる。
> （カ）　頭位を正位（眼耳水平位）に保つため、軽く顎をあげさせる。

（2）結核の「問診・学校医による診察」の実施学年について正しいものを、次の（ア）～（エ）の中からすべて選び、その記号を書け。

（ア）小学校、中学校全学年である。
（イ）小学校、中学校及び高等学校全学年である。
（ウ）小学校第１学年、中学校第１学年、高等学校第１学年以外の学年は、検査項目から除くことができる。
（エ）小学校第４学年及び第６学年、中学校及び高等学校第２学年は除くことができる。

［問３］次の（1）、（2）の文は、健康診断時に注意すべき疾病及び異常について説明したものである。それぞれの説明にあてはまる疾病等の名称を書け。

（1）左右の眼の屈折度が異なるもので、その差が大きいと左右の網膜に映る大きさが異なるもの。幼児期では弱視や両眼視機能の発達が阻害されることがある。早期に眼鏡やコンタクトレンズでの矯正が必要となる。

（2）鼓膜に穿孔がなく、中耳腔に貯留液があり難聴の原因となる。治療は長期間を要することも多く、薬物治療を含めた保存的治療と、鼓膜換気チューブ留置術がある。鼓膜換気チューブ留置術を受けている場合は、通常の学校生活では特に問題ないが、水泳の場合は注意が必要なこともある。

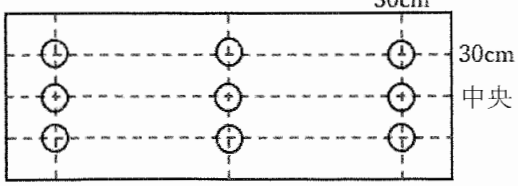
2　学校環境衛生について、次の［問１］、［問２］に答えよ。

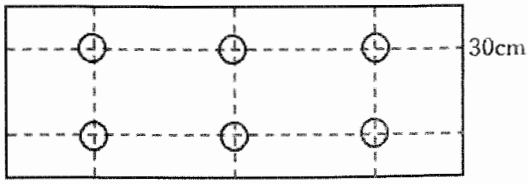
［問１］「学校環境衛生管理マニュアル」（平成３０年度改訂版　文部科学省）に示されている教室等の環境に係る学校環境衛生基準について、次の（１）、（２）に答えよ。

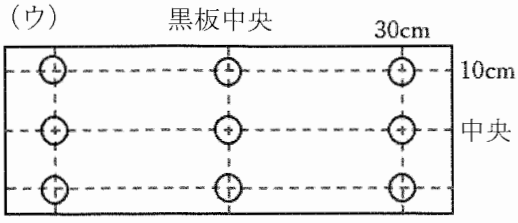
（１）照度の基準及び検査方法についての内容として正しいものを、次の（ア）～（カ）の中からすべて選び、その記号を書け。

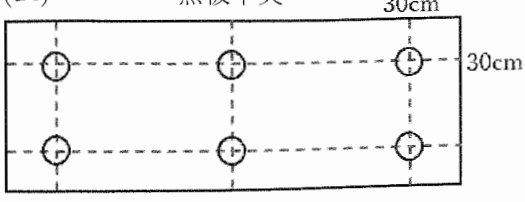
（ア）　毎学年２回定期に行う。
（イ）　教室及びそれに準ずる場所の照度の下限値は、500 ルクスとする。
（ウ）　教室及び黒板のそれぞれの最大照度と最小照度の比は、20：1 を超えないこと。また、10：1 を超えないことが望ましい。
（エ）　コンピュータを使用する教室等の机上の照度は、500～1000 ルクス程度が望ましい。
（オ）　テレビやコンピュータ等の画面の垂直面照度は、500～1000 ルクス程度が望ましい。
（カ）　測定位置は、教室では児童生徒等の机上で測定し、教室以外では床上 1m の水平照度を測定する。

（２）黒板の照度を測定する位置を示した図として適切なものを、次の（ア）～（エ）の中から１つ選び、その記号を書け。

（ア）


（イ）


（ウ）


（エ）


［問２］ 次の文は、「児童生徒の健康に留意して ICT を活用するためのガイドブック」（令和４年３月改訂版　文部科学省）に示された電子黒板を使う際の留意事項についてまとめたものである。文中の［　①　］～［　④　］に、下の（ア）～（ク）のいずれかを入れてこの文を完成させる場合、正しい組み合わせはどれか。下の A ～ E の中から１つ選び、その記号を書け。

・窓及び廊下側からの太陽光や照明の光などで電子黒板の画面が反射するのを防ぐために、電子黒板を窓に背を向けるように角度をつける、電子黒板の設置位置を［　①　］ように移動させるなど、配置場所を工夫する。
・照明は［　②　］利用するのが望ましい。
・［　③　］で表示するポジティブ表示は、電子黒板の画面の反射防止にも有効で見やすくなる。
・教室の最後部に座る児童生徒にも見やすいように、電子黒板に表示する［　④　］を最小限に絞り、拡大機能を利用するなどして、文字の大きさを考慮する。

（ア）窓から離す　　（イ）窓に近づける
（ウ）電子黒板の上だけ点けて　　（エ）点けて
（オ）明るい背景に濃い文字　　（カ）暗い背景に濃い文字
（キ）情報量　　（ク）文字量

	①	②	③	④
A	（ア）	（エ）	（オ）	（キ）
B	（ア）	（ウ）	（カ）	（ク）
C	（イ）	（ウ）	（カ）	（ク）
D	（イ）	（エ）	（オ）	（キ）
E	（ア）	（ウ）	（オ）	（キ）

3 「学校における熱中症対策ガイドライン作成の手引き」（令和３年５月　環境省・文部科学省）における暑さ指数（WBGT）について、次の［問１］～［問３］に答えよ。

［問１］次の文は、暑さ指数（WBGT）について述べたものである。文中の［　①　］、［　②　］にあてはまる語句を書け。

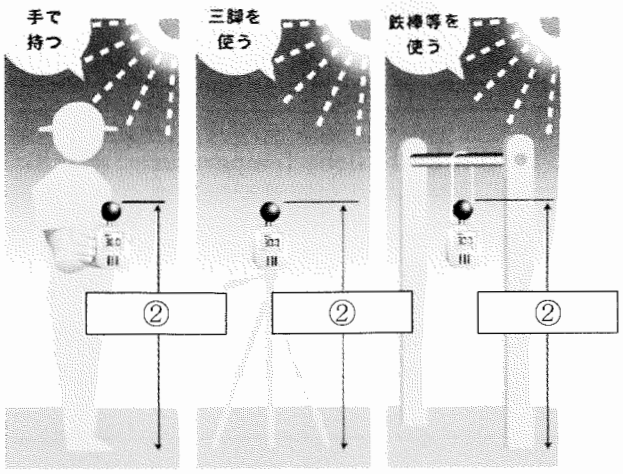
> 暑さ指数（WBGT：Wet Bulb Globe Temperature：湿球黒球温度）は、熱中症の危険度を判断する［　①　］の指標です。このWBGTは、人体と外気との熱のやりとり（熱収支）に着目し、熱収支に与える影響の大きい気温、湿度、［　②　］・輻射など周辺の熱環境、風（気流）の要素を取り入れた指標で、単位は、気温と同じ℃を用います。

［問２］暑さ指数（WBGT）の算出について、次の［　①　］～［　④　］にあてはまる数値を書け。

> 【 暑さ指数（WBGT）の算出 】
> WBGT（屋外）＝［　①　］×湿球温度＋［　②　］×黒球温度＋0.1×乾球温度
> WBGT（屋内）＝［　③　］×湿球温度＋［　④　］×黒球温度

［問３］ 次の**図**と文は、測定器を用いて、屋外で暑さ指数を測定するときのポイントについて示されたものである。文中の［ ① ］～［ ④ ］にあてはまるものを、下の（ア）～（シ）の中から１つずつ選び、その記号を書け。

図



・黒球を［ ① ］に当てる（黒球が陰にならない）

・地上から［ ② ］m程度の高さで測定

・［ ③ ］等の近くを避ける

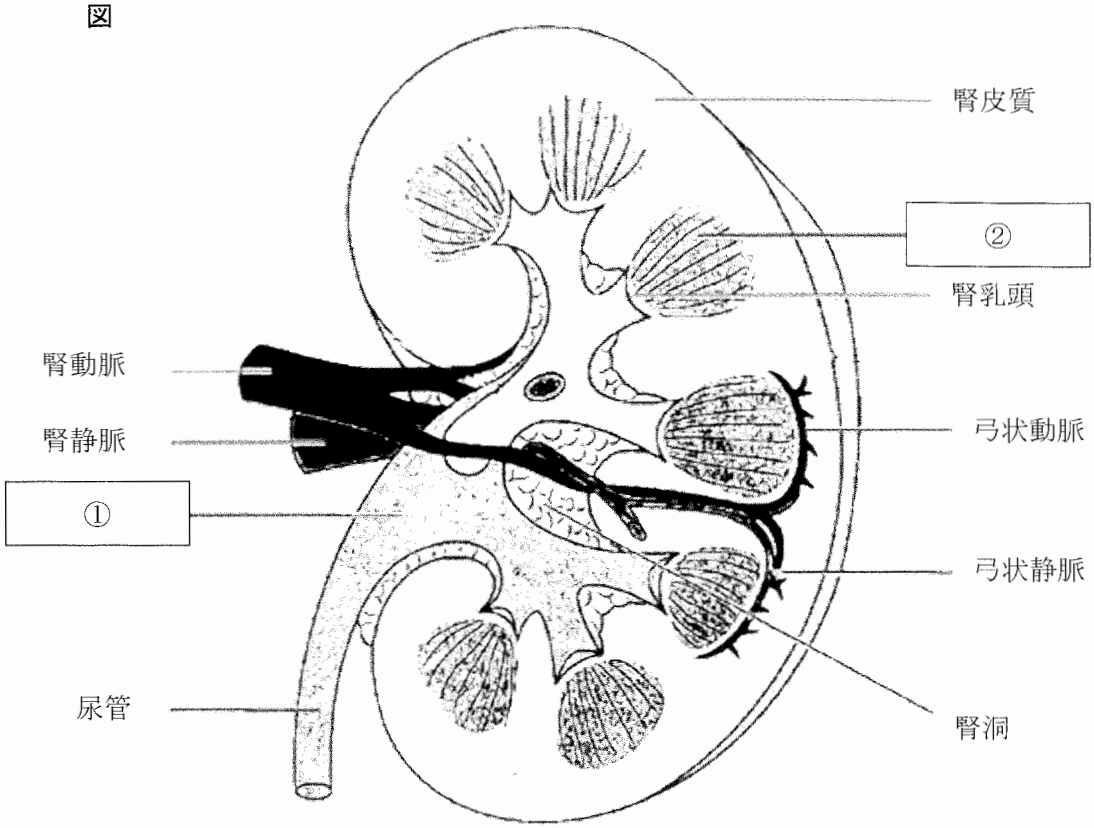
・値が安定してから（［ ④ ］分程度）測定値を読み取る

（ア）壁	（イ）１５	（ウ）１．３	（エ）１．１
（オ）太陽	（カ）０．９	（キ）５	（ク）日射
（ケ）陰	（コ）反射光	（サ）１０	（シ）窓

4 腎臓と子供の腎臓病の特徴について、次の［問１］～［問３］に答えよ。

［問１］次の**図**は、腎臓の縦断面図である。図中の［　①　］、［　②　］にあてはまる語句を書け。

図



［問２］ 次の（１）、（２）の文は、腎臓の疾患についてまとめたものである。それぞれにあてはまる疾患名を書け。

（１）学校検尿で最も多く発見されるもので、学校検尿受検者全体の０．１～０．２％程度にみられる。血尿以外に尿検査で異常がなく、その他の腎臓の病気に関連した症状のないもの。

（２）腎臓のろ過装置である糸球体から非常に多くの蛋白質が漏れ出してしまい、その結果血液中の蛋白質が少なくなり、全身の浮腫をきたす。

［問３］ 次の**表**は、「学校検尿のすべて」（令和２年度改訂　公益財団法人日本学校保健会）における子供の糖尿病の種類と特徴をまとめたものである。表中の［　①　］～［　③　］にあてはまる語句を、下の（ア）～（ケ）の中から１つずつ選び、その記号を書け。

表

	１型	２型
体　　型	や　せ　型	［　①　］
発病経過	［　②　］	ゆ　っ　く　り
糖尿病性ケトアシドーシスの頻度	乳幼児で多くみられる。	清涼飲料水の多飲時にみられる。
原　　因	膵β細胞における自己免疫の異常	［　③　］
糖尿病昏睡の頻度	乳幼児でしばしばみられる	ま　　れ
家族内の糖尿病	家族内に糖尿病者は少ない	家族内に糖尿病者が多い
治　　療	インスリン注射が治療の中心である	食事療法と運動療法および経口血糖降下薬
発症年齢と頻度	６～７歳と１０～１２歳に多く、乳幼児にも発症する。	１０～１５歳以上に多く、乳幼児では稀。

（ア）肥満型　　（イ）急激　　（ウ）標準型
（エ）遺伝的要因　　（オ）ゆるやか　　（カ）肥満・生活習慣の悪化
（キ）太り気味　　（ク）暴飲・暴食　　（ケ）速い

5　健康相談について、次の［問１］、［問２］に答えよ。

［問１］次の文は、学校保健安全法の一部である。文中の［　①　］、［　②　］にあてはまる語句をそれぞれ書け。

> 第八条　学校においては、児童生徒等の［　①　］に関し、健康相談を行うものとする。
>
> 第九条　〈　略　〉
>
> 第十条　学校においては、救急処置、健康相談又は［　②　］を行うに当たつては、必要に応じ、当該学校の所在する地域の医療機関その他の関係機関との連携を図るよう努めるものとする。

［問２］「教職員のための子供の健康相談及び保健指導の手引」（令和３年度改訂　公益財団法人日本学校保健会）に示されている発達段階別身体の健康問題の特徴について、「青年前期（中学校）」の特徴にあてはまるものを、次の（ア）～（キ）の中からすべて選び、その記号を書け。

> （ア）この時期の成長・発達は個人差が大きく、男女差も著しい。
> （イ）ホルモン内分泌器官の発達が盛んになり、身体が急速に変化する。
> （ウ）学校教育を通じて高度な心身の活動が継続する時期であるが、心身のバランスはよくとれ、疾病にかかることは比較的少ない。
> （エ）自己同一性を確立していく中で、心身の調子を崩し、摂食障害（拒食症、過食症）、パニック発作などを発症することがあるため注意が必要である。
> （オ）筋力、協調運動、体力が次第に増加し、複雑な運動を行う能力も向上する。
> （カ）自律神経の調節が崩れやすい時期でもあり、心身とも不安定となりその不調を訴える生徒が多くなる。疾患としては心身症を伴う不登校、起立性調節障害、ストレスが原因となっている過敏性腸症候群などに注意が必要である。
> （キ）この時期の身体的変化は比較的少なくなり、それに従い身体像も安定していく。

令和７年度　和歌山県公立学校教員採用候補者選考試験

校種別		教　科	養護に関する専門科目	１枚のうち１

1	問１【完答５点】	①	胸郭	②	皮膚疾患	③	心臓	
	問２【各４点】	（１）	（ウ）、（カ）	（２）	（ア）			
２１点	問３【各４点】	（１）	不同視	（２）	滲出性中耳炎			

2	問１	（１）【５点】	（ア）、（ウ）、（エ）	
		（２）【４点】	（ウ）	
１３点	問２【４点】	A		

3	問１【各４点】	①	環境条件			②	日射		
	問２【完答５点】	①	０．７	②	０．２	③	０．７	④	０．３
２５点	問３【各３点】	①	（ク）	②	（エ）	③	（ア）	④	（サ）

4	問１【各４点】	①	腎盂	②	腎錐体（髄質でも可）		
	問２【各４点】	（１）	無症候性血尿	（２）	ネフローゼ症候群		
２８点	問３【各４点】	①	（キ）	②	（イ）	③	（カ）

5	問１【各４点】	①	心身の健康	②	保健指導
１３点	問２【完答５点】	（ア）、（イ）、（カ）			